

令和3年度 東 地域包括支援センター自己評価報告書

自己評価実施日	令和3年12月20日
行政評価実施日	令和4年1月12日
運営協議会開催日 (書面開催)	令和4年3月29日

包括情報	
法人名	社会福祉法人緑星の里
責任者	米田 清美
所在地	沼ノ端中央4丁目14-24
連絡先	0144-52-1155

地域情報	
担当地区	明野元町、あけぼの町、字植苗、字柏原、新開町、拓勇西町、拓勇東町、東開町、字沼ノ端、沼ノ端中央、北栄町、字美沢、字勇払、ウトナイ北、ウトナイ南
高齢者人口	5,667 人(R3.10.1現在)
高齢化率	15.0 %(R3.10.1現在)
地域特性	苫小牧市の東側に位置しており、鉄路を挟んで、新興住宅が広がる北側の地域と、高齢化率がかなり高くなっている南側の地域に大きく分けられている。勇払地区は、企業の撤退により、人口の減少、診療所を始めとする社会資源が圧倒的に少ないことが大きな課題である。中心部から離れている事で、通院を始めと移動手段の確保が高齢者にとっては困難な状況がある。

職員体制			
○職種		○雇用形態	
保健師または看護師	1 人	常勤職員	5 人
主任介護支援専門員	2 人	非常勤職員	2 人
社会福祉士	2 人		
その他	2 人	○常勤職員の平均勤務年数	
		平均	4.5 年

総合評価	
自己評価	行政評価
地域活動の制限がある中で、オンライン環境を取り入れ、活動が中断しないようにした。オンライン環境は研修や勉強会・他機関との連携に活用することができた。認知症の相談が増加してきている中、認知症地域支援推進員と連携しながら活動してきたが、時間を要するケースも多くあり、認知症以外でもその課題の多様性に苦慮することもあった。	地域のつながりを大事にした支援を継続することで、着々と地域のネットワークづくりや地域力を生かした住民主体の地域づくりが構築されている。また日頃の活動の中で発見した地域課題をいち早く解決に向け、研修企画や資源開発等に取り組んでいる。今年度はコロナウイルスの影響で業務が制限される中、認知症カフェの運営、搜索模擬訓練をはじめ、新規の資源開発、既存資源の継続に、センター職員全員で協力し合い行われている。今後も先駆的な取り組みを期待する。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)委託業務の趣旨及び内容・進め方に対する共通理解に努めている		
(3)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(4)PDCAサイクルを活用した運営を行い、業務を継続的に改善している		
(5)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有(研修内容のフィードバックや回覧等)をしている		
(6)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(7)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(8)苦情の内容と対処について記録し、センター内共有し再発防止に努めている		
(9)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(10)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%未満)		
(11)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(12)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	研修にはZOOMを利用し、積極的に参加している。毎朝のミーティングでの報告やケースの検討を行い、支援がスムーズに行えるようにしている。夜間や休日の対応も適切に行っている。	日々のミーティングを積み重ね、職員間で情報を共有し、積極的に委託業務遂行に取り組んでいる。特に、コロナウイルスの影響で研修が制限される中、いち早く主催者側として研修を企画運営を行っていた。
2 共通の支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	ホームページのほか、フェイスブックも活用している。会議や行事などができるフリースペースを確保し、開かれた場所になるようにした。ニーズに応じた活動も行っているが、他に広がっていかない。	ホームページやフェイスブック等を活用し、幅広い年齢層への周知に取り組み、いち早くニーズに応じた資源開発に取り組んでいる。また地域とのつながりが強く、圏域の地域資源やニーズも把握できている。今後も手つなぎネットや東胆振ネットワーク等を活用しながら、地域のニーズに応じた開発に取り組むことを期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談では的確に状況を把握し、緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(2)継続支援のため、情報整理・分析により課題を明確にしている		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
	自己評価	行政評価
特記事項	ケースは時間を設けて、職員間で共有している。成年後見制度は活用を意識している。虐待対応は連携しながら行っている。	断らない支援を心掛け、関係機関と三職種が情報共有を図り、チームとして速やかに連携対応している。特に男性介護者の会は継続的に続け、その中で相談があったおむつ交換の方法について、研修会を企画し開催している。今後も相談者のニーズに対応するため、関係機関との連携及び、多様な企画運営を期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
	自己評価	行政評価
特記事項	介護支援専門員に対しては、カンファレンスの開催などを積極的に支援している。勉強会も開催するが、参加が少なく、積極的なアピールが必要。地域ケア会議は必要時、適切に開催している。	コロナウイルスの影響で、活動が制約される中、開催方法を工夫しながら研修等を企画、実施している。また日頃の地域活動から医療機関をはじめ、地域のネットワークづくりが着々と進んでいる。今後も住民の声を大事にする支援の継続を期待する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)介護認定の非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	行っている。自立の方にもアプローチしている。	介護予防支援として、本人が自立した生活を意識できるように働きかけ、改善を目指した支援を行っている。地域のインフォーマル資源も把握できているため、今後も介護サービスに頼らない自立支援を進めていくことを期待する。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	チーム員としての活動が十分にできていない。認知症の相談が増加しており、認知症の方の住みやすい地域づくりや理解につなげることが難しいと感じている。	センターに認知症地域支援推進員が配置されている強みを生かして、搜索模擬訓練をはじめ、認知症の方を支える地域づくりに取り組んでいる。またセンターで認知症カフェを運営し、認知症の方や家族を支える取り組みも実施した。今後チームオレンジやピアサポート等、当事者支援の視点の更なる地域づくりの実現を期待する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	病院からの直接の相談が増えてきているが、包括からの訪問やアプローチはもっと必要である。	日々の支援の他、包括的ケアマネジメント支援や地域ケア会議を通じて、医療機関や関係機関と積極的に情報共有を行い、連携強化に努めている。

評価項目		自己評価	行政評価
8 生活支援体制整備			
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている			
(2)生活支援コーディネーターと地域における高齢者ニーズや社会資源について協議しているか			
特記事項	自己評価	行政評価	
	相談対応や地域ケア会議は適切になされている。他機関との連携については、丁寧なつなぎや相互理解が必要であると感じている。	生活支援コーディネーターと連携し、だけボラや犬猫預かり事業等目的を理解した利用を行えている。今後も把握した情報や課題を共有し、協働しながら資源開発を進めていくことを期待する。	
9 一般介護予防事業			
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している			
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている(コロナ禍における自粛対応含め)			
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している			
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている			
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している			
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している			
特記事項	自己評価	行政評価	
	予防教室の中で、行っている。郵送での取り組みのアドバイスも複数回行った。中断している方には電話での確認や参加の促しを行っている。講話などは積極的に行っている。独自の教室を開催しているほか、チラシでの啓発も実施している。	コロナウイルスの影響で教室中止時に体操の紹介や脳トレリーフレットの配布を行うなど、利用者の介護予防に取り組めるよう働きかけていた。また積極的に地域の定例会や出前講座等に協力し、介護予防の普及啓発に取り組んでいる。	

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容(特に好事例の紹介)
<p>地域ケア会議を必要時適切に開催し、課題の解決を行い、社会資源につなげるような会議となった。研修の機会を確保できるようにオンラインシステムを積極的に活用した。</p>
2 今年度事業の達成状況及び成果
<p>事業内容については概ね達成できている。圏域の地域ケア会議の開催は年度内を予定している。地域ケア会議で出た課題の解決の一つとして、ベンチを事務所前に設置。ゴミ箱対応のベンチモデルケースとして設置した。</p>
3 達成できた又は達成できなかった原因
<p>法人の理解があり、協力の体制がある。コロナ禍でも、活動できるようにした。</p>
4 課題及び今後の取組
<p>他機関との連携が課題だと感じている。特に地域の病院とは少しずつ繋がってきているが、今後も働きかけが必要である。誠実で丁寧なつなぎ・連携を心掛けたい。</p>